

むさし野

No.37

事務局 〒350-0822 川越市山田912-7 石井方
 電話 049-225-2466
 E-mail:ishii.0525@r8.dion.ne.jp
 ホームページ：http://www.longview.jp/musashino/

23名が出席、新役員も選出 2009年度定期総会 今年も研修・見学会を――新年度の行事を決定

2010(平成22)年度の法政むさし野会定期総会が、6月7日(日)13時30分からさいたま市民会館「うらわ」において開催されました。

今年は、久しぶり参加の武居仁子さん(高崎市)と大和田武さん(さいたま市)、中国・大連市から一時帰国中の影山五月さん(大学・日本語教師)に初参加の堀家隆房さん(毛呂山町)と柳瀬勝彦さん(越谷市)を含めて23名が出席されました。

第1部・総会は、菅井幹事の司会で始まり、開会のこ

問の再任)の各議案について報告と説明が行われ、内、第2議案で次年度繰越金が前受金(会費3人分)を考慮すると赤字決算(-4,437円)となることなどに関連して、会費未納者の対応等について質問があり、引き続き会長において協力方をお願いすることで、いずれも満場一致で可決・承認されました。その他の議題はなく、宇佐美幹事の閉会のことばをもって議事を終了しました。

第2部・講演会は、齋藤仁氏(埼玉県北本市立北本中学校長)をお招きして『学校教育の現場から』と題して、

公教育が抱える様々な課題や大人の責任などについて、約1時間ご講演いただきました。

(講師紹介：榊原幹事)

『学校教育の現場から』 齋藤仁氏の講演概要

今日の公立中学の教育事情について、冒頭、小中学校で起きた児童・生徒による殺人事件(7件)等を紹介の後、今日の教育問題の背景として、①戦後の政治・文化等の価値観の機軸の歪み、②偽善的な善意主義・理想主義の問題、③進む幼稚化・無責任化社会の問題、④グ



総会参加者での記念撮影(6月7日)

とば(鳥海幹事)、会長挨拶、議長に石井会長を選出した後、議案の審議に入りました。第1号議案「09年度活動報告について」(筑井副会長)、第2号議案「09年度収支決算及び会計監査報告について」(大川幹事・鹿野会計監査)、第3号議案「10年度活動方針について」(石井会長)、第4号議案「10年度予算について」(大川幹事)、第5号議案「役員改選および顧問の指名について」(小林会計監査：新幹事2名の推薦、石井会長：現役員・顧

ローバリゼーションがもたらしている問題(価値観の多様化と流動化、格差社会等)、さらに、教育行政問題(ゆとり教育の時代とその歪み等)を取り上げ、終わりに、大都市周辺の公立学校の現状について、体験事例などを踏まえての講演でした。

「公立学校の学習環境の悪化と子どもの学力低下は表裏一体」との指摘があります。公立学校のあるべき姿を取り戻すために何をすべきか――。先生だけではなく、い

ろいろな社会経験のある人や地域の力を教育現場に取り込むことも大事なことはないかと思ひます。講師が提唱される「中小企業で成功された社長を招いての出前授業～心の汗・身体の汗、頭の汗～」は、その一つとして興味深く拝聴しました。

第3部・茶話会は、総会に先立ち行われた役員会の報告(11月の見学会候補地・日程等)について意見交換を行った他、自己紹介・近況報告(左写真)で懇親を深めました。

一人でも多くの方に声をかけて下さい 会長 石井 満

本日はご多忙の中、「法政むさし野会」定例総会にご出席頂きありがとうございます。役員の方々には日頃より本会の運営に積極的なご発言を頂きお礼を申し上げます。本日は3つほど報告をさせていただきます。

1つ目は、ここに掲げてあります「法政むさし野会」の横断幕は、会員の吉田さんに書いていただいたものです。本日は都合がつかず欠席ですが、皆様に宜しくお伝え下さい、との事でした。

2つ目は、先日法政大学から平成21年度通教卒業生で埼玉県在住の名簿を送って頂きました。19名でした。昨年は36名、一昨年は45名でありました。今年はあまりにも少ないので大学の通教事務課に電話を致しましたら、次のような説明がありました。

「通信教育の在校生が激減しています。その理由としては、現在の若者の大卒者の割合が50パーセントを越え2人に1人は大卒者であり、大卒者としての希少価値が薄れた事。加えて、通信教育を受講する20～30歳代の人口が減っている事。また、昔は通信教育講座を開講して

会場展示コーナー出展者は、・鳥海美智子：俳句同人月刊誌『紫』6冊 ・尾辻紀子：著書『晴れた港の天空』(講談社出版サービスセンター)他2冊・榊原洋子：リメイク洋裁作品8点 ・筑井信明：資料提供『埼玉県サイクリング・ロードマップ』 ・石井満：詩『淋しさの種』1点、の5氏でした。(順不同)

総会は17時に終了。番外の第4部は、浦和駅近くの居酒屋に有志13名が集い、さらに懇親を深め、それぞれご機嫌で家路につきました。(矢田記)

いる大学が法政大学を含め5校程度でしたが、現在では30校を超え、対象となる人口が減っている所へ持って来て、受け皿が多くなった。しかし一方で法政大学の一般の受験者数は日本全国の大学で4番目に多い。」というお話でした。

3つ目は、先日5月15日(土)の「神宮の集い(法政対早稲田戦)」は参加者は私1人でした。あいにくいいところ無く1対4で負けでした。早稲田の斉藤投手のホームランというおまけ付きでした。秋には皆さんで母校の応援に神宮へ行きましょう

今日は法政むさし野会始まって以来20名を超える会員の参加です。どうぞ1人でも多くの人と言葉を交わして、来年ご出席になりましたら「お元気でしたか? お久しぶりですね」と声を交わせるようになって下さい。

本日は第1部が総会、第2部が講演会、第3部が茶話会となっております。どうぞ最後まで楽しんで下さい。(6月7日の総会挨拶より)

「奥の細道」を旅して (第3回)

鳥海美智子(さいたま市)

芭蕉は白河にかかった頃からようやく旅の心が定まった。この関所はなごそ勿来、ねづ鼠の関とともに奥州三関のひとつで、古来多くの歌人が歌を残した。特に能国法師の「都をば霞ともに出しかど秋風ぞふくしら河の関」は有名である。

須賀川ではとうきゆう等射を訪ねて七泊八日の長逗留をした。等射は奥州俳壇の有力者で須賀川駅長であった。

風流はじめの初やおくの田植歌

これからも出てくるが芭蕉の挨拶吟のうまさは追隨を許さない。

「奥の細道」では西行の後を追って「歌枕の地」を訪ね歩くことと源義経の足跡を追うことが目的であった。「佐藤庄司が旧跡」とは佐藤元治のことで義経に仕えたつぐのぶ継信、忠信兄弟の父である。

芭蕉は福島市にある丸山城の旧跡を尋ね、人が語るこ

の城の悲話を聞いて涙を落とした。近くの寺には一家の石碑もあり、寺の置物として義経の太刀と弁慶のおひ笈があった。義経の太刀は太平洋戦争で金属供出に出され、現在は弁慶の笈だけが残っている。

宮城県に入った芭蕉は藤中将とうのちゆうじゆうぎねかた実方の墓を尋ねる。実方は一条天皇の時代、和歌の名手であったが、天皇の前での口論が原因で陸奥の守に左遷され、そのままこの地で亡くなった。

芭蕉は身体も疲れていたもので遠く眺めるだけで通り過ぎた。西行はここを訪れ、実方の形見となった薄の穂波を見て「くちもせぬ其名ばかりとどめ置てかれのの薄形見とぞ見る」を残した。

私はこの場所に行ったが1200年も前の、石碑もない墓が現在も地元の有志に守られていることに感動した。

笠島はいづこさ月のぬかり道

大国中国に住んでみて

影山五月（所沢市）



中国ではもう教えることはないであろうと言う思いを抱いて帰国した私であったが、再度南京に9月9日に赴任してきた。社会主義の矛盾を目の当たりにして嫌悪していたはずなのに、一方ではパワー溢れるこの歴史のある国に惹かれるものは何なのだろうと自問してみた。

経済が発展しお終えた今の日本社会に閉塞感を抱いているのは私だけではあるまい。13億人のパワー溢れる大国には、やはりなにやら大きな底力を感じるし、学生達が真面目によく勉強する姿勢にやりがいを感じることが大きな原因なのかもしれない。

先の赴任地、大連は遼寧省にある海辺の町で世界で一番日本語学習者が多い地域だそうだ。日系企業も多く、広い敷地の中にいくつも工場が並んでいる。新興国の追い上げに世界の中で生き残るためにはやはり低賃金で生産できる場所に工場を移さねばならないのが日系企業の現実であろう。

一昨年前のリーマンショック、ドバイの金融危機で中国社会も決して右肩上がりだけの経済状態ではないようであるが、マネーゲームの勢いは誰にも止めることは出来ないであろう。

一般の人達はインフレを気にしているがあまり危機感を抱いていないように見えた。しかし、中国人の本音はなかなか計り知れないものがある。

この国には密告制と言って中国政府を非難するような人は即刻逮捕されるそうだ。そのせいか公安はかなり威張っている。

大連で受け持った授業で「日本国家概況」という科目があった。3年生は必修である。日本の地理、歴史、文化、政治など学をぶ。当然ながら日中戦争、関東軍の暴走、南京事件に触れなくてはいけない。教える側も、なぜ中国侵略が行われたかとかかなり調べて授業に臨んだ。

歴史の見方は決して一つではないので、講義でも一般論、私見に分けて述べなくてはならない。特に、学校が遼寧省のせいか朝鮮民族の生徒が数人いた。しかも2人は「731細菌部隊」があった場所近くの出身であった。今なお畑を耕すと当時のものが出てくるそうだ。

なんと細菌部隊が行った数々の出来事を7歳から見せられるとかで、最初は恐怖で震えが止まらなかったそうだ。これも教育の一つとはいえ7歳の子供には酷なことである。

こんな話が出来るようになったのも彼らが心を開いてくれたからだと思うと嬉しかった。多分日本人の私が細菌部隊について少しだけ知っていたことが彼らには驚きだったのであろう。侵略した側とされた側の温度差を感じた。二人とも森村誠一氏の本を読みたがっていたが、日本から送るわけにはいかない理由がある。公的機関に開封された場合、私は日本にいるので良いが、朝鮮族の学生に迷惑がかかるかもしれないのだ。こう言うことが日中間での社会の仕組みの違いであると言うことを思い知った。

中国という国は主義的には社会主義であるのかもしれないが、絶対的封建制が敷かれた国のような印象を持った。

現実的に見て、13億人の胃袋を満たすためには強い権力者が必要なのかもしれない。

この国の政治家だけには生まれたくないな、などと平和ボケしている日本人の私は心の中でつぶやいた。

さて、今度の赴任地は虐殺が行われた地、南京である。日本語教師は要請があれば、危険地域でない限り出かけていく。どこにあっても前向きで様々な可能性を持った若者を応援したくなる。どんな出会いが待っているか楽しみである。

会員の声

「会への連絡」はがきから（敬称略）

○小売業に勤めているため出席できません。現在56才ですが定年になりましたら出席させて頂きたいと思えます。また勉強会なども開いて頂けたら良いです。

押切次夫

○4月17日法政地理学会総会に出席する。現役学生、教授等に接し、若き時代を想い出してこれからも負けずに頑張っていくことを決意する。

宇佐美善夫

○最近、埼玉県法友会が結成されましたので本部としてもご検討下さい。

内田吉久

○むさし野36号も良くまとまりました。特に会長の「卒業生の井戸端会議の場を目指して」は会の目的を端的に表現していると感心致しました。

鳥海美智子

○当日新河岸川サイクリングマップを持っていきます（無料配布します）

筑井信明

次回の見学会 『小江戸川越散策』

11月21日(日) 午前～午後

蔵の街「川越」は、川越城の城下町として栄え、今なおその風情を残しています。観光客も多く、見所もたくさんあります。秋の一日、ゆっくり散策したいと思います。

日時：11月21日(日) 11時00分
集合場所：川越市内・札の辻
費用：3000円

(昼食、喜多院及び蔵造り資料館の入館料、観光ガイド料)
(散策予定コース)

・札の辻―菓子屋横丁―右門(昼食)―蔵造り資料館―喜多院
・参加申込者に後日地図をお送りいたします。



参加申し込みは10月16日(土)までに、電話、FAX、Eメールなどで石井宛お願いします。

- 法事の為帰省致しますので失礼します。会員も増えて頼もしく思っております。 横井時弘 渡部左知雄
- いつも出席できず、すいません。 大和田武 織田澤すみれ
- 今の活動に満足しています。懸案は財政面です。 大川成一 吉野 晴康
- むさし野36号、最後の部分笑いながら拝読しました。石井様はsuper manのようです。好奇心いっぱいですね。私は昨年11月中国でインフルエンザにかかりひどい目にあいました。6キロ減った体重もほぼ戻り、またまた新学期に向けて筋トレです。私も自己自慢できるものを身につけられるようにアンテナを張り巡らします。 影山五月
- この4月に体調を崩してしまい近々入院の予定です。今後支部活動その他も当分の間無理な状況です。 原小夜子 武居仁子
- 当日は以前よりの予定が入っていますので欠席させていただきます。 竹村栄雄 青木美枝
- 今回は大変残念ですが欠席になると存じます。皆さんによろしく。 桃木良子
- 入会后初めての総会出席ですのでよろしく願い申し上げます。 柳瀬勝彦
- 一昨年のリーマンショックによる不況はいまだに私の周りからは取りのぞかれていません。年金生活の私には当面の生活が困る事はありませんが、整体師の仲間の若い人たちは二足、三足の草鞋をはく生活に追われているのが現実です。この経済不況の状態がいつまで続くのか、頼りない政府にがっかりしている毎日です。 葛西利武

法政を応援しよう！ 参加者募集

2010年秋季「神宮の集い」
(六大学野球・秋期リーグ)

日時：10月2日(土) 午前10時30分
集合場所：明治神宮野球場 3塁側学生入り口付近
法政むさし野会プラカード目印
入場料：500円

◆あとかぎ◆

会報の発行が遅れましたことをお詫びいたします。▼連日の猛暑をやっと乗り切った感があります。皆様は如何でしょうか。▼先日の民主党代表選は政治家の未熟さを露呈しました。結局、国民が一番この国の現在を冷静に見ていたことになりました。私達は今後の活動を通して学びたいと思います。皆様の参加を楽しみにしております。(鳥海)